

実験 2

避難を体験してみよう

実験の概要

グラウンドや体育館で、避難時に必要なものを身につけ避難を擬似体験します。

実験のねらい

水災害時には、避難の遅れが大変な被害をもたらします。しかし、避難に必要なものをそろえたり、行動しやすい服装・身支度を整えたりして避難することは、なかなか容易ではありません。

この実験では、実際に避難に必要なものを選び身支度を整えて、歩いてみることで、すばやい避難準備と適切な避難方法を擬似体験し、避難行動についての理解をしていただきたいと思います。

実験の前に

水災害が発生するような大雨のときを想像してみましょう。
空は暗く、強く雨が降っています。近くで雷が鳴っています。夜で真っ暗のときもあります。停電しているかもしれません。風が強く吹き、飛ばされているものがあるかもしれません。大きな水たまりや水のあふれた水路などもあるかもしれません。
そのような状況の中で、歩いて避難所に行かなければなりません。
先にこのような状況をイメージし、実験をはじめてください。

用意するもの

長靴、運動靴、傘、レインコート、手提げカバン、リュックサック、防災グッズ(用意できるものでかまいません…水の入ったペットボトル、懐中電灯、ビニール袋、ラジオ、電池など)、障害となるもの(マット、1段分の跳び箱など)

避難コースの準備

実験では、
スタート地点 ⇒ 防災グッズを選び身支度するコーナー
⇒ ～広いところを歩く間に～ 障害物 ⇒ ゴール(避難所)
と歩きます。グラウンドあるいは体育館内に身支度コーナーと障害物を配置しておく必要があります。
クラスをいくつかのグループに分けておこなうと良いでしょう。

実験の手順

1. 避難に必要なものを用意する。
…実験1で示した防災グッズの中から用意できるものを数種類用意します。身支度を比較対照できるものとして、長靴、傘、手提げカバンがあると良いです。

2. 各グループの一番目の児童がスタート地点に立ち、「スタート!」の合図で身支度コーナーに行く。

3. 必要な防災グッズを準備し、懐中電灯を手に持って、避難所となるゴールに向かって歩き始める。
…暗い中で避難することを想定し、懐中電灯を手に持ちます。

4. 途中にある障害物(大きな水たまりや水路の代わりです)を避けながら、ゴールを目指す。

5. ゴールしたら、何を持ってきたか、何がたいへんだったかを話し合う。

期待される成果

○避難時には行動しやすい身支度をすることが大切であることを実感します。
・速く安全に避難するには、長靴、傘、手提げカバンなどは適しません。
・長靴は雨天時に使い慣れています。長靴より深い水の中では、水が入り歩みにくくなるため、水災害時の避難には適しません。グラウンドで実験ができる場合には、長靴の中に水を入れて歩いてみるのも良いでしょう。
○重くなりますので、必要なものだけを選択して避難することが大切です。
○リュックサックに入れて背負うと両手があき、行動しやすくなります。



水防災実験素材

発展学習：水の入った長靴を履いて、家庭用ビニールプールの中を歩く。
…長靴(中に水を入れる)で家庭用ビニールプールを歩く体験は、長靴の危険を認識するために良いと思います。



実験に際してのポイント

防災グッズが用意できない場合には、実験1で作成したカードと水の入ったペットボトルで代用することができます(ある程度重いものを持って歩いてみるのが重要です)。

長靴は雨天時に使い慣れています、洪水の避難には適しません。グラウンドで実験ができる場合には、長靴の中に水を入れて歩いてみるのも良いでしょう。また、発展学習として示しましたが、家庭用ビニールプール程度の水深の中を歩いてみるのも良いでしょう。

！注意事項！

※危険なので、暗いところでは実験しないでください。

※傘の先が人にあたらないように注意が必要です。

※大きな障害物を配置すると転倒する危険があります。

※水の入った長靴で走ると転倒しやすいので、注意が必要です。

※発展学習を行うときは、衣類がぬれる可能性があるため着替えを用意しておくとい良いでしょう。